

おとくにしんぶん 10 2013

http://www.otokuni-jc.org/

発行/公益社団法人乙訓青年会議所 〒617-0826 長岡京市開田3丁目10-16 長岡京市立産業文化会館2F 編集/JC 運動情報委員会

Contents

卒業生からの一言

乙訓の元気

ブロック
アカデミー事業



乙訓の元気

大山崎町の隠れた名所「聴竹居」を御存知ですか？天王山の懐に抱かれた、竹の葉擦れの心地よい風が通る「環境共生住宅」です。

日本の風土と西洋のデザインを融合させた造りは、外観にモダンな印象を与えながらも日本人の生活習慣に適した配慮の数々がなされています。広い窓を取り入れ採光に配慮しつつも夏の日差しを考慮した庭木と庇。家族の集う居間を中心として、住む人のつながりを意識した設計。風を室内に取り込む様々な工夫。さらには、素材や施工の端々にまでこだわる美的感覚。建築より八十年以上が経過しながらも、その設計思想は益々注目に値します。

本年六月には、天皇皇后両陛下もこの聴竹居を御視察のために大山崎町へ行幸啓なされました。聴竹居は乙訓地域の歴史的・建築的な文化財から日本の文化遺産として受け継がれるべきものへとなりました。



これからも、この乙訓の宝を守っていききたいものです。
聴竹居の見学は普段は水曜、金曜、日曜のみの完全予約制となっております。また、十一月には特別公開ツアーが開催される予定です。見学をご希望される場合、まずはメールにてお問い合わせください。「聴竹居 倶楽部 管理ボランティア chouchikuiy@gnaii.com (担当：荻野 淳太)」

会員募集

青年会議所(JC)は「明るい豊かな社会の実現」を理想とし、「奉仕・修練・友情」を信条として様々な活動をしている青年経済人の集まりです。会員資格は二十歳から四十歳迄の年齢制限があり、メンバーは限られた時間の中で次代のリーダーとなる責任感を持ち切磋琢磨しています。地域の産業を担う青年経済人の人的ネットワークを広げ、より青年会議所運動を展開する為に、メンバー一同、共に夢を語り合える仲間としてJCの扉を開いて頂ける事をお待ちしております。乙訓青年会議所では随時メンバーを募集しております。
ご興味がある方は公益社団法人乙訓青年会議所事務局(〇七五七一三〇)まで

ブロックアカデミー事業

八月二十五日(日)京都ブロック協議会のブロックアカデミー事業が水室の郷で開催されました。まず初めに、トレーニング①では、リーダーとしての



気づきをテーマに講演を聞き、目的を達成する為に共助の大切さを学びました。トレーニング②では、グループワークが行われ改めて自分を見つめ直す事が出来ました。グループワークの最後には、全員が変革宣言をし、トレーニングが終了しました。場所を移しながらプログラ

ムが開催された一日の研修を他LOMの方と振り返りまた親睦を深めることが出来ました。長時間の事業でしたが、いろんな気づきや学び、そして新しい繋がりが出来た大変有意義な一日になりました。(記事 黒川 昌哉)

青松会

八月三十日(金) 祇園の新門荘にて、乙訓青年会議所の茶道同好会である青松会の役員会が行なわれ平成二十五年度の役員について話合いました。また懇親会では、ご卒業された先輩方との数少ない交流の場という事もあり、先輩方の変



も弾んでます交流を深める事が出来ました。(記事 谷口直満)

乙訓水辺フェスティバル

九月八日、淀川河川公園大山崎地区にて乙訓水辺フェスティバルが開催されました。前日から降りだした雨の影響で開催中止も検討されましたが、プログラムを一部修正したのみでは予定通りの進行となりました。



披露され、子どもから大人まで大いに盛り上がりを見せました。地域の特産物である竹を使用した遊びでは竹馬と竹ぼつくりを作り、遊び、また竹水鉄砲を使った天下分け目の水辺合戦では満れる事も気にせず

子ども達の歓声がこだましていました。クライマックスには初秋を思わせる青空の下、子ども達の願いを書いた短冊を花火の玉に貼り付け、カラフルな昼花火が轟音と共に打ち上げられました。(記事 中路 耕太)

九月オープン例会

九月十二日(木)、長岡京市中央生涯学習センター三階メインホールに於いて、人間力向上委員会担当の九月オープン例会が開催されました。

本例会は講師に林修氏をお招きし、「相手に伝わる表現力」をテーマに講義して頂きました。林先生は総論でコミュニケーションは始まる前に終わっていること、各論で伝え方は相手に応じ



て変化させ、相手ごとに統一すると効果的であることを講義して下さいました。今後のコミュニケーションにおいて、「この人の言うことだから聞こうという状態」をいかに作っていくかが大変重要であることを学びました。

大変ご多忙な時期に素晴らしい講義をして頂いた林先生には感謝の気持ちで一杯です。(記事 谷川 真也)

編集後記

新旧交差する時期になってまいりました。今年をやりきりながら来年に向けて頑張ります。編集長 谷口直満

JC 運動情報委員会

委員長 崔祥龍 編集長 谷口直満 副編集長 中路耕太 編集委員 岩井泉二郎 黒川昌哉 高井茂行 谷川真也 堤淳太 中小路健吾